

第115回『謳粹会』の記

開催 日時 平成20年3月13日(木)

場所：国立[かゆや]

春3月、♪♪ウメは咲いたか、さくらはまだかいなあ〜、♪♪浮かれているわけではありません、文教地区国立は花の名所でもあるのです。ところで、この花の名所、いかにも国立らしく、誠に文教くさい。梅の「谷保天神」は言わずと知れた学問の神様、桜の「大学通り」は一橋大学。

かように、この地は非常に真面目な地区なのではありますが、決して勉強ばかり、研究ばかりが売りではありません。

昭和55年高校野球夏の大会、この地区の国立高校は都立高校として初めて甲子園に駒を進めたのでした。

はるか彼方に我が母校、土浦一高が二重写しに滲んで見えます。

ともあれ、今回の例会場「かゆや」はかかる地区にあります。

経営者の土方登志子さんは、東進会の元副会長であります。当時、6月の総会では率先して受付を担当され、裏方として会のスムーズな運営を支えておられたのを思い出します。



その思いやりの精神は「かゆや」にも生かされていると見ました。

国立、文教地区の勉強・学問に覆われた堅苦しさを「いやし」で和らげる、そのような役割。

もともと、「かゆや」は、家族に優しい家庭料理から出発したものでありましょう、メニューにも「おでん」は勿論のこと「おばんざい」の名もあり、おそらく家庭的な料理を提供して、学問で硬くなった石頭を和らげるのが狙いか。

ところで、参加者は、遠く、つくば市から参加の沼尻さんを含めて18名、開始前から和気あいあいの雰囲気。

乾杯の音頭は31年卒の高野久弘氏。

参加二回目、福田稔氏の挨拶にも感動、同氏は福祉関連事業をしているとのこと、つまり「こころのカウンセリング事業」・「介護員養成研修事業」をなされているという。もともとは大手の百貨店に勤めておられたが、思い立って転身なされたとのこと、さぞかし、ご苦労もあったのでは。

つくづく、我々の仲間は多士済々であると改めて認識する。

料理はさすがに、体にやさしい心のこもったもの。

先ずは「箱膳」、「なだ万アプローズ」にも負けない内容、トマトのおでんというのもあったのであるが、飲べえの小生、とんと記憶がない。

酒は土方さん吟味の、「醸し人 九平次」、フランスのミシェランガイド認定の三ツ星レストランのワインリストにオンリストされている唯一の日本酒とのこと、美味しいことは誠に美味しい、が、ミシェランにも教えてやりたい、日本酒は「醸し人 九平次」ばかりじゃないぞと。

若山、木口両氏ご寄贈の「福井 越前岬」、「岐阜 三千盛 にごり」にも堪能した、さすがに謳粹会の名にふさわしい。

最後は、店ご自慢の粥、酔った体にやさしく、改めての活力がよみがえってくる。さすが、文教の地の癒しの店、「かゆや」ではある。

(31年露木 修記)

◎本日の料理

- 1、箱膳 *きゅうりとワカメの菊花おろし酢、*くじらのベーコン
*車エビ塩焼、*合鴨のハム、*和風クリームチーズ
- 2、料理 *手造りゴマドーフのあげだし、*トマトのおでん
*里芋の西京味噌仕立て、*ぶりの幽庵焼き、
*とりのグリル、*ふきのとうの天ぷら、*アピオス蒸かし
*ぬかずけ(きゅうり・大根・人参)
- 3、粥 *野菜、*十三穀米、*辛味噌

◎本日のお酒

- 1、日本酒 *醸し人九平次(純米吟醸)・・・山田錦と雄町の二種
*桜川・・・・・・・・・・本醸造(常温)、吟醸(冷酒)
*越前岬、三千盛(にごり)・・・若山氏、木口氏提供

◎出席者

大野 金一(昭31)、中本 青士(昭31)、木口 健児(昭36)
菊池 清(昭31)、沼尻 正信(昭31)、若山 宏(昭36)
酒井 隆二(昭31)、武藤 明(昭31)、北川 正之(昭37)
高野 久弘(昭31)、横手 一郎(昭31)、福田 稔(昭37)
露木 修(昭31)、土方登志子(昭32)、長戸 琴(昭41)
中村 信秀(昭31)、沼里 征二(昭33)、久松 信明(昭41)
以上18名